

健やか ぐんま

Sukoyaka Gunma

vol. 22

2018. 秋

Autumn!



特集

P2-5

がん征圧チャリティーウォークイベント

リレー・フォー・ライフ・ジャパン2018ぐんま 開催報告

財団からのお知らせ P6-8

- 複十字シール運動 健康福祉部長訪問報告
- ピンクリボンキャンペーン実施しました!
- 臓器移植普及啓発キャンペーン報告
- ワシントン大学学生が視察に訪れました!
- 中学生職場体験、受け入れ
- 平成30年度 地域保健研究発表会について
- ぐんまマラソンに健康ブースを出展しました



公益財団法人 群馬県健康づくり財団

鍵引き整体 鈴木 裕 様

今回が2度目の参加になります。昨年、少人数で参加させていただき、大好評でしたので、今年はさらに多くの方に「身体のケアと感動の輪を広げたい」との想いから、県外からも仲間を集めて、人数を増やし参加しました。また私個人としては、2年前にがんで亡くなった父親を思い出す機会になれば、と思っています。

一番印象に残っていることは、昼夜を問わず、リレーを行う多くの参加者とルミナリエの圧倒的な多さに群馬の「Save Lives への強い想い」を感じたことです。

ちなみに鍵引き整体というのは、あまり聞いたことがないかもしれませんが、柔術の活法から生まれた日本古来の伝承施術です。

今後もリレーをつなぐ方々の身体のケアをさせていただければと思っています。



ぐんま国際アカデミー 11年 山本結愛 様

母がもってきたチラシを見て「面白そうな企画だな」と思い、同級生の子を集めて参加しました。

皆、高校生として、がんに立ち向かう人の応援がしたい、がんについて学びたいと集まった仲間です。期末テストなどの関係で準備に当てられる期間が短く、放課後に、テント内で販売するアクセサリや、看板などを作るのが大変でしたが、2日間、私も同級生たちも本当に楽しむことができました。また、学ぶことの多い2日間でもありました。暑い中大勢の人が歩いてきたこと、夜のルミナリエの綺麗な光景、様々な団体のブース、ギターを持った即興ソングのおじさん、ピンクの風船の着ぐるみをきたぼんご(?)さん、印象に残っていることが沢山あります。来年、私は受験のため参加できないかもしれませんが、これから学校内でRFLについて広め、下の学年にも参加してもらえるように宣伝をがんばります。



医療法人樹心会 角田病院 小林一幸 様



当院のスタッフは以前から他の職能団体で参加していましたが、当院も健診で大腸・乳がんなどの早期発見、早期治療を呼びかけ、また地域の医療機関として地域活動にも積極的に取り組んでいることから、今年初参加することにしました。勤務時間外での参加者集めはなかなか大変でしたが、働くセクションが違うと同じ病院内でもふだん話をする機会がなかなかないスタッフ同士が、リレーウォークに参加することによって、コミュニケーションがとることが出来たことはとてもよかったと思います。

また当院だけでなく、他の団体との交流もできる貴重な機会となりました。

クスリのマルエ 長谷川美鈴 様

群馬県がん対策連携企業に登録していたご縁で、群馬県健康づくり財団から声をかけていただきました。

社内にもがんと闘っている同僚やご家族がいるので、企業として協賛だけでなく実際にチーム参加して応援したいと思い、参加を決めました。

初参加で、様子が分からず、心配なこともありましたが、実際に参加してみると、参加しないとわからない、参加しないと体感できない本当に素晴らしいイベントだと感じました。

何よりも嬉しかったのは、このイベントに勇気をもらってサバイバーであることを公表し参加してくれたスタッフがいたことや、家族にがんであることを隠してきたスタッフが家族に伝えることができ良かったと家族で参加してくれたことです。

時間を忘れて、できるだけ長くその場にいたくなる、そんな素敵な空間を共有できたことを本当にうれしく思いました。ありがとうございました。

新島学園短期大学 清水洋生 先生

「このイベントに参加している方、全員笑顔ですね」という学生の言葉が印象に残っています。参加者全員が、共通の想いを持ってRFLJぐんまに望まれているのだと実感しました。

サバイバーの皆さんが、一步一步着実に歩みを進める姿に勇気をいただきました。今後更に「健康」について学びを深めていきたいです。

群馬県スポーツ協会からのご紹介により、今年度初めてボランティアとして5名の学生が参加しましたが、来年度は企画・準備の段階から携わらせていただければと思います。



リレー・フォー・ライフ ・ジャパン2018 ぐんま

リレー・フォー・ライフは、がん患者さんやそのご家族を支援し、がん征圧を目指すチャリティイベントです。

1985年にアメリカの一人の医師がトラックを24時間走り続け、アメリカ対がん協会への寄付を募ったことから始まりました。「がん患者は24時間、病いと向きあっている」という想いを共有し支援するためでした。ともに歩き、語らうことで生きる勇気と希望を生み出したいというこの活動を代表するイベントは、現在、世界約30か国約6,000か所で開催、日本では50箇所で開催されています。

群馬県では、2013年に初めて開催されて以降、患者会や病院関係者だけでなく、一般の方々にも広がりつつあり、現在では日本有数の規模となっています。

6回目となる今回は、参加87チーム、来場者数のべ8,300人、寄付額は600万円超と過去最高の規模となりました。寄せられた寄付金は、(公財)日本対がん協会を通して、がん医療の発展や患者支援、検診の啓発等に役立てられます。



10/5(金) 9:00

実行委員、ボランティアの方々、健康づくり財団職員がふれあいグラウンドに集結し準備開始です。テント張りの職人さんたちも続々集まってきます。日暮れ前に準備を終わらせないと…東日本に近づきつつある台風25号を気にしながらも全員で黙々と準備を進めます。



がん征圧チャリティーウォークイベント

「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2018ぐんま」



10月6日(土)12:00～7日(日)12:00 県総合スポーツセンターふれあいグラウンドで24時間に渡って開催された「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2018ぐんま」が終了しました。

87の参加チームに、ボランティア、一般参加者を含めるとのべ8,300の方が集まり、がんに立ち向かうため命のリレーをつなぎました。

1日目

10/6(土) 9:00

澄んだ青空が広がっています。気持ちのいい朝になりました。台風25号の影響はなさそうです。

毎年人気のチャリティーイベントブースも準備万端、会場が賑やかになってきました。



12:00

いよいよサバイバースラップです。サバイバーによる命のリレーが力強くスタートしました。その後を県内のがん診療連携拠点病院をはじめとする87の参加チームが続きます。

18:00

ルミナリエの灯りがリレーウォークの足元を照らします。ひとつひとつのルミナリエに、いろいろな想いや物語が込められています。



18:30

静寂の中、エンブティテーブルのセレモニーがアヴェマリアの独唱で始まりました。昼間の賑わいとは違って、会場が厳かな空気に包まれる特別な時間です。

2日目

10/7(日) 6:30

さわやかな朝を迎え、参加者皆でラジオ体操をしました。リレー・フォー・ライフ・ジャパン2018ぐんまも残すところあと6時間です。



9:30

公益財団法人日本対がん協会 垣添忠生会長がリレー・フォー・ライフ・ジャパン2018ぐんまを訪問してくださいました。超多忙な中でのご参加です。



10:00

素晴らしいパフォーマンスに、たくさんの元気をいただきました。ボランティアで出演してくださっている、全てのステージ出演者の皆さん、本当にありがとうございました。



12:00

皆さん、来年もまたこの場所でお会いしましょう！



臓器移植普及啓発キャンペーンを実施しました

10月の臓器移植普及推進月間を中心に、県内での学園祭・病院フェア・大型ショッピングモール等において、意思表示カード・免許証・保険証の裏面に記載されている意思表示欄への記入方法の説明などの啓発活動を行いました。

皆さんもぜひ、自分だけではなく、家族や周囲の方と臓器移植について話し合い、自分の臓器提供に対する意思を表示しておいてください。



※臓器移植は病気や事故によって臓器(心臓や肝臓など)が機能しなくなった方に、他の方からの健康な臓器を移植して、機能を回復させる医療です。健康な家族からの肝臓、腎臓などの部分提供による生体移植と亡くなられた方(心臓が停止した死後または脳死後)からの臓器提供による移植があります。



ワシントン大学の学生が視察に訪れました

当財団では視察研修の受け入れをしており、群馬大学医学部と国際交流協定を結んでいるワシントン大学医学部の学生4人が訪れました。

財団の概要や事業の中心である集団検診の説明を聞いた後、その集団検診で使用している胃がん・乳がん・子宮がん検診車の見学を行いました。

海外では集団検診という概念があまりなく、初めて見る検診車とデモンストレーションの様子に驚かれた様子でしたが、財団の検診システムが少しでも参考になればと思います。



群馬県健康福祉部長を表敬訪問しました

複十字シール運動開始にあたり、平成30年8月1日(水)群馬県地域婦人団体連合会(結核予防婦人会)の関会長他、代表者と財団職員により群馬県健康福祉部川原部長を表敬訪問しました。

複十字シール運動の趣旨や県内の結核の現状などを説明するとともに、キャンペーンで配布するグッズをお渡しし、複十字シール運動へのご協力をお願いしました。



ピンクリボンキャンペーン活動実施しました

9月のがん征圧月間に合わせて、今年は桐生ポートレースでの催しに参加し、ピンクリボンキャンペーン活動を行いました。

当日は女優の麻木久仁子さんのトークショーなども開催され、沢山の来場者で賑わいましたので、患者会の皆さんと協力して、乳がんモデルを設置したり、リーフレットを配布するなどして、活発な普及啓発活動を行うことができました。

また乳がん検診も同時に行われ、一般申込みのあった30名の方が受診されました。

国が目標に掲げている「がん検診受診率50%達成」に向けて、群馬県健康づくり財団はこれからも活動し続けます！



中学生職場体験

群馬県健康づくり財団では、将来、医療職等を志望する中学2年生の職場体験を受け入れしています。今年度は前橋市内の3つの中学校の生徒さんが当財団を訪れ、模擬試験として自分たちで実際に定期健康診断の検査項目を体験したり、検診車の見学をしました。

10月開催のRFLJ2018ぐんまで飾るルミナリエも作成しました。最初は皆さん緊張気味でしたが、少しずつ雰囲気にも慣れ、積極的に質問をしていました。



平成30年度 第6回群馬県地域保健研究発表会を開催します。

この会は、研究発表を通じて保健衛生の向上を図り、県民の健康増進に寄与するため、また保健従事者の交流を目的として群馬県と当財団が主催するものです。

今年度も3月開催予定です。詳細が決まり次第、各関係機関にご案内を送付しますのでご覧いただき、ぜひご応募ください。



ぐんまマラソンに健康ブースを出展しました

平成30年11月3日(土・祝)正田醤油スタジアム群馬をメイン会場に行われた第28回ぐんまマラソンにおいてブースを出展し、血管年齢測定と脳年齢測定を実施しました。また同時になんに関するリーフレットを配布するなどして、参加者や来場者にがん検診の受診を呼びかけました。

今年は当財団からフルマラソンに2人、10kmマラソンに6人の職員が出場し、全員が無事完走しました。